

## 第1回埼玉県消防学校再整備基本構想策定委員会【概要】

令和6年11月29日（金）15:00～16:45  
オンライン開催（Zoom）

### （出席者）

原田 久	立教大学法学部学部長
小林 恭一	危険物保安技術協会特別顧問
日高 真実	総務省消防庁消防大学校副校長
長江 照夫	さいたま市消防局長
熊谷 智子	川崎市中原消防署署長
鈴木 亜弥子	川口市消防局救急課次長兼課長
竹本 吉利	一般社団法人独立蓄積型データ放送研究開発機構
鶴見 恒	埼玉県危機管理防災部副部長

### （次第）

- 1 開会
- 2 埼玉県危機管理防災部副部長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 議題

#### 議題1 委員長の選出について

国の「消防力の維持・強化のための消防体制の構築に関する検討会」の座長を務めた原田委員に決定

#### 議題2 消防学校の再整備について

資料3枚目から13枚目まで事務局から説明

### （以下、委員の主な意見等）

#### （1）実災害に対応した高度な技術の習得について

- ・ 風水害や土砂災害などの大規模災害に対応するための高度な技術を習得することは当然に必要である。
- ・ そのためには、実災害に対応した訓練が可能な訓練施設が必要である。
- ・ 火災件数の減少に伴い現場経験が減っているため、OJTでカバーできないものは理論化した教育が必要である。
- ・ 全国救助大会が開催できるような訓練できる施設が必要である。

#### （2）ジェンダー視点に立った教育環境

- ・ 入校者数の増加が見込まれる中で、早急な対応が必要である。
- ・ プライベート空間の確保や感染症対策を考慮すると寮室の個室化は必要である。

- ・ 女性職員の増加などに流動的に対応できるような施設が必要である。
  - ・ 大規模災害時における緊急消防援助隊受入れにあたっては、ジェンダー視点による配慮が必要である。
  - ・ L G B T Qなどどのような個性にも配慮できるような視点も必要である。
- (3) D X を活用した学習環境
- ・ 救急業務ではタブレットが使用されている中、消防学校でも実践に近い形での教育が必要である。
  - ・ D X をスムーズに進めるには、業務の統一化、標準化が必要である。
  - ・ 学習環境の充実や感染症対策などを考慮すると寮棟のW i - F i 環境の整備は必須である。
  - ・ 学生に1人1台タブレットやPCの整備が必要である。
  - ・ 教育訓練コンテンツの充実やデジタル化も必要である。
  - ・ 学生や消防本部との連絡調整など教官の業務効率化も必要である。
  - ・ ドローンを活用した消防活動など先進事例に対応した教育も必要である。
- (4) 再整備場所
- ・ 現在地は、学生の掛け声等による騒音や消火訓練に伴う煙害などに対する苦情がほとんどなく、訓練が実施しやすい環境である。
  - ・ 県内どこからも通勤しやすい場所は大事な視点である。
  - ・ 財政的な制約や時間的な制約などを考慮すると優位性があるのは現在地である。
  - ・ 現在地での建替えを前提に議論する。その場合、教育が中断しない計画が必要である。
  - ・ 現在地より適切な場所があれば、県で検討することとする。
  - ・ 整備する場所のハザードの浸水など災害リスクの整理が必要である。

議題3 今後の進め方について  
資料14枚目を事務局から説明

## 5 閉会